
特集：徳島県の医療と教育：その現在と未来

徳島県の医療と教育－徳島県鳴門病院の考え－

荒瀬 誠 治

徳島県鳴門病院院長

地域医療支援病院とは、患者を軸に地域の医療機関と強固に連携し、専門性の高い検査、入院医療、手術や救急医療等を行い、回復後は再び地域の先生方に健康管理／通常医療をお願いする、急性期医療の中核となる病院です。地域住民や医療機関に強く支持される質高い病院であり続けるためには、常に全職員が病院医療力向上につとめ、医療安全を文化にまで高めなくてはなりません。また、地域の医療環境の変化を考えて、将来問題になる課題を先に見出し、先手を打つ努力をしなければなりません。このように、病院目標のほとんどが「地域」という言葉ではじまります。それゆえ私達の病院目標をきちんと考え、実践することが、将来の地域（徳島県の）医療と100%関連します。

一方、鳴門病院は臨床研修病院で「次代を担う医療人を養成・教育する」義務の一部を担いますが、医療・医学の教育に「地域性」の言葉は似つかわしくありません。

若者が「その病院で普通に医療研修業務を行うことで、着実に医療力が向上する」を実感できる研修・教育を続け、最終的に「患者と一緒に戦う医学は面白い」と考える医師が育てば私達の勝ちとなります。後々になって、「鳴門病院での医療研修教育がキャリアアップにつながった」との言葉を聞くことが私達の喜びになります。近年、教育効果を具体的項目の達成度（それもごく短時間での）で競うようになってきましたが、私には大根の品評を貝割れ菜で行っているのでは？と思えてなりません。きれいでか細い貝割れ大根をたくさん集めても、1本の白くて太い根にはなりません。

このような少しシニカルな現状認識に基づき、徳島県（地域）の医療と教育の将来について話しますが、地域医療支援病院を代表してではなく、あくまで大学を遠く離れた病院の1院長として、独断と偏見に満ちた思いを述べることとなります。